

大阪自然史フェスティバル 2014 でのシンポジウム「2010年代の里山管理シンポジウム II」  
及び ブース展示「里山の利用と生物多様性をテーマとしたブース展示」

開催日時 : 平成 26 年 11 月 15 日（土）及び 16 日（日）ともに 9:30~16:30

開催場所 : 大阪市立自然史博物館

内 容 : ●シンポジウム「2010年代の里山管理シンポジウム II

～薪のある暮らしは何を変えるのか～

- ・「里山管理は二酸化炭素排出抑制と生物多様性の二兎を追えるのか」 佐久間大輔（大阪市立自然史博物館）
- ・「里山はなぜ管理を必要とするか」 大住克博（鳥取大学）
- ・「薪で変える里山と社会の関係」 奥敬一（富山大学）
- ・「薪ストーブのある暮らし」 中田兼介（京都女子大学）
- ・「芸北せどやま再生事業の狙うもの」 白川勝信（北広島町芸北高原の自然館）

総合討論

- ブース展示「里山の利用と生物多様性」をテーマとした展示  
（里山関連団体による）

- ・大阪府森林組合
- ・NPO 法人西中国山地自然史研究会 他

参加者 : 両日あわせて約 2 万 3,300 名

当日の様子 :



### シンポジウムの様子

参加者は約 100 名で、講師 5 名の発表の後、総合討論では大阪府森林組合の都解さんにも登壇していただき、実際に現場に従事する視点も含めて議論を深めた。（講演内容の詳細は別添資料参照）

また、参加者の構成等については、以下の通りであった。（※受付時集計による）

- ・性別：男性 60 名、女性 23 名（記入 83 名中）
- ・住所：6 府県 31 市町村（記入 80 名中）
- ・年齢：10 代 2 名、20 代 8 名、30 代 3 名、40 代 13 名、50 代 15 名、60 代 23 名、70 代 11 名（記入 75 名中）

講演いただいた講師の方々の方々の地域からも含めて、広域的な参加をいただいた。また、年齢構成も大きく偏ることなく、各世代の方々への波及効果を期待している。

当日の様子（つづき）



ブース展示の様子

大阪府森林組合に委託した中で、ペレットストーブの展示や二酸化炭素排出抑制としての「里山の木質バイオマス利用」等についての紹介、あるいは林産物の販売など、イベント参加者への関心はかなりあった。なかでも、ペレットストーブに関しては、これから家を購入したり、あるいは改築を検討するような世代の方々からの質問が多かったようである。ペレットストーブの導入の契約が1件成立した。



ブース展示の様子

大阪府森林組合の他にも、薪などのエネルギーを利用した取り組みについての展示をする団体（行政やNPO等）もあった。